

インシデント・アクシデント報告（児童発達）令和2年4月～11月（12/1付）

*4月は新型コロナウイルス感染症予防対策のため、ぼてと活動日数が通常よりは少ない。

月	総数	時間						男女比		場所別										事故の分類（何があった）										理由							
		8時台	9時台	10時台	13時台	14時台	15時台	男	女	遊戯室	中庭	児発室	放課後部屋	駐車場	畑・海・川・公園	車内	廊下・トイレ	その他	転倒	転落	衝突	打撲	捻挫	指はさみ	噛みつき・ひっかき	外傷（擦り傷・切り傷）	アレルギー	感染症（発熱・嘔吐）	車内トラブル	他害行為	脱走・飛び出し	その他	活動内容・周辺状況	要因の遊具・用具	子ども同士の関わり	特性	不明
4月	13	2	3	0	4	4	0	13	0	8	0	3	0	0	1	0	1	0	3	2	2	1	0	1	1	2	0	0	0	1	0	0	4	4	2	2	1
5月	42	3	6	0	16	16	1	39	3	18	5	12	3	2	0	1	1	0	4	2	5	9	1	2	4	5	0	0	1	8	1	0	8	11	13	10	0
6月	35	0	5	2	0	15	13	28	7	12	0	16	0	0	0	2	4	1	6	1	1	1	1	0	6	8	0	1	0	7	0	3	10	6	14	3	2
7月	33	0	5	7	0	13	8	27	6	19	1	12	0	0	0	0	1	0	2	1	4	11	1	0	3	8	0	0	3	0	0	13	7	10	3	0	
8月	41	0	3	13	1	13	11	36	5	23	0	15	0	2	0	0	1	0	6	4	10	5	0	1	0	4	3	0	0	8	0	0	20	4	12	5	0
9月	36	0	7	6	0	15	8	26	10	13	3	15	1	0	0	0	3	1	3	4	6	13	0	3	1	2	1	0	0	0	0	3	13	9	5	7	2
10月	37	0	8	2	1	16	10	31	6	18	0	13	0	2	0	1	3	0	8	1	5	8	0	0	0	3	1	0	1	5	1	4	20	7	6	4	0
11月	20	0	0	3	0	9	8	15	5	2	3	12	0	0	0	2	0	1	1	0	0	9	0	0	0	3	0	0	0	5	2	0	7	1	1	9	2
合計	123	5	19	9	20	48	22	107	16	57	6	43	3	2	1	3	7	1	15	6	12	22	3	3	14	23	0	1	1	19	1	3	35	28	39	18	3

・11月インシデント件数は**21件** 児童に関する**7件**（おいかっこ1、シートベルト外し2、皮膚湿疹2、フェンス飛び出し1、他児トラブル1）、物品に関する**4件**（でかクッションで転倒、机のねじ外れ、三輪車置き場、平均台、）事務に関する**10件**（アレルギー対応におけるうっかり2、送迎に関する情報伝達エラー3、個人情報メモの間違い貼り1、シートベルト忘れ3、チャイルドロックの確認ミス1）

11月対策として

活動に関すること

- ・おいかっこ⇒おいかける周辺の環境整備、転倒しやすい児童なのか特性把握すること
- ・転がしドッチボール⇒活動の中での怪我等はやむを得ない部分はあるが、広さと人数とのバランス、ボールのセレクトなどは検討する
- ・チャンバラごっこ⇒時間を決める（5分、10分など）時間が長くなることでのトラブルや切り替えの悪さ有、午後の児童は放課後さんとの関わりも生じる時間帯があるので、ルールを共有しておく。
- ・帰る前の対策として、一度中庭から出る際に、フェンス前で送迎車に乗る児童とスタッフがそろったことを確認してから移動することを徹底する

用具関係について

- ・チャイルドロックかかかっていなかった⇒送迎前後で都度都度確認する習慣をつける
- ・シートベルト関連に関して⇒**つけ忘れに関しては、運転手と児童介助職員共にシートベルト行ったか声かけていく。**シートベルト外す行為に関しては、他園送迎時、園到着時に多発しているので運転手の注意が必要（残っている児童への対応）
- ・机のねじはずれ・サッカーゴールのねじ外れ⇒環境整備する中で発見に至る、今後も**環境整備の取り組みを全職員意識して行う**
- ・三輪車に乗って階段上に乗ろうとする⇒三輪車置き場を階段下から離して、ペンキ等で置き場所を分かりやすく示す（未実施今後相談の上実施）

食物アレルギーに関して

- ・専用の皿・コップの準備はされていたが使用忘れ⇒新たに「**おやつ**」係を決め、二重確認できるようにする。
- ・アレルギーのある子の利用曜日は他の児童のおやつもその児童に合わせて提供していたが、そのおやつ在庫切れ⇒**全利用時のおやつをアレルギーのある子も食べられる内容にして6種類の常に準備して、週単位で種類を決め提供している**

特性への対応に関して

- ・**トラブルに発展する組み合わせは存在する。**それぞれ個別対応しつつも、職員が仲介となりトラブルに進展しないように注意を払っていく。
- ・危険予測の弱さ、噛みつき、脱走、飛び出し周辺視野の狭さからくる怪我に関しては、個別支援を進めていく